

市民協働事業提案制度 相互評価シート

令和3年度実施事業

令和3年10月26日

事業名	人と動物（犬猫）の共生社会実現のための市民参画促進事業(動物愛護ボランティア実態調査)		
団体名	一般社団法人まちの遊民社	担当課名	環境総務課

■ (1) 市民協働の観点から

「目的の共有」「役割分担」「十分な意思の疎通」「対等性」「相乗効果・波及効果」についての成果・課題や、双方の評価点が異なる場合の協議内容など。

ボランティアの活動実態を把握し、効果的な支援の方向性を検討するという目的を共有し、各種連絡手段により意思の疎通は図れていたと思う。また、事業を進めていくにあたっては、それぞれの立場からの考えを対等に意見交換できていたと思う。本事業は実態調査であるため、直接市民サービスの向上とはならないが、富士市にいる動物愛護に関わる担い手を把握できたことは一定の成果となった。

■ (2) 事業内容の観点から

「目的・目標の達成」「事業スケジュール」「費用対効果」「市民満足度」についての成果・課題や、双方の評価点が異なる場合の協議内容など。

現状で問題となっていることを共有し、その問題の構造を各要素に分けて、効果的な支援の方向性を考えることができた。概ねスケジュールどおりに実施でき、費用に見合った成果であった。市民に直接影響がある事業ではないので市民満足度の評価は難しいが、住環境を改善し、動物愛護を推進するためにできる取組について、検討の材料を得た。

■ (3) その他、課題やその改善方法など

ボランティアの直面している実態や意見はこの調査を通して把握することができ、受託者からも、翌年度の市民協働事業提案、並びに、報告書で支援策についての提言があった。しかしながら、今すでに行っている市民協働事業補助金や野良猫の不妊手術補助金以外に、具体的施策をすぐに事業化するのは難しい状況であると思われる。調査結果、提言を基に、支援の必要性や実現可能性を見極めながら、今後の支援策の検討を進めていく。